

4.廃棄物試験研究センター

清掃工場、ごみ埋立場などの環境保全のための法規制に関する試験業務及び清掃施設の適正な維持管理に必要な試験業務を行うとともに、試験結果を各施設へ速やかにフィードバックすることにより、適正な維持管理の向上に努めている。

また、より良い循環型社会を目指して、食品廃棄物等の有効利用や再資源化について調査・研究を行っている。さらに、ごみ減量や再資源化を支援するための基礎的な調査も行っている。

平成 21 年度に廃棄物試験研究センターで行った試験検査の検体数、項目数は表 1 のとおりである。

表 1 平成 21 年度 廃棄物関係試験検査数

区 分	検体数	延べ項目数
清掃工場（資源化を含む）		
ごみ	133	3,239
灰		
焼却灰	263	1,040
集じん灰	20	160
水質		
月試験	190	3,521
ボイラー水	363	2,372
排ガス	107	1,065
悪臭	39	496
騒音・振動	15	377
粉じん・ダスト	133	404
ダイオキシン類	341	2,477
その他	88	695
埋立場		
水質	303	5,299
悪臭	6	6
発生ガス	147	588
ダイオキシン類	68	2,040
し尿中継所		
悪臭	13	119
緑のリサイクルセンター		
剪定樹木の堆肥化調査	183	445
資源化調査	20	40
その他	229	1,656
合計	2,661	26,039

1) 清掃工場等

(1) ごみ

南部、西部、臨海工場及び玄界島焼却場に搬入される可燃ごみ及び家庭系可燃ごみの組成調査を行った。

東部、西部資源化センターに搬入される不燃ごみ及び同センター破砕処理物の組成調査を行った。

家庭系不燃ごみについて、ごみ減量や再資源化の推進等のため、ごみの組成調査を行った。

(2) 灰

工場における焼却灰及び集じん灰の試験検査を行った。

また、適正な集じん灰処理を実施するために、キレートなど各種薬剤の性能検査も実施した。

(3) 水質

工場におけるボイラーや排水処理装置の適正な維持管理に必要な水質検査を行った。

(4) 排ガス

工場における燃焼管理や排ガス処理装置の適正な維持管理のために排ガス検査を行った。

(5) 悪臭・騒音・振動・粉じん等

工場の煙突や敷地境界における悪臭、敷地境界における騒音・振動及び資源化センターにおける粉じん等の測定を行った。

(6) ダイオキシン類

工場から排出される排ガスや排水等及び作業環境中のダイオキシン類調査を行った。

2) 埋立場

(1) 水質

埋立場における浸出水及び污水处理場の維持管理に必要な試験検査を行った。

(2) 悪臭

埋立場敷地境界における悪臭の測定を行った。

(3) 発生ガス

埋立場において安定化の指標となるメタンガスや二酸化炭素等の測定を行った。

(4) ダイオキシン類

供用中埋立場および埋立終了埋立場からのダイオキシン類の汚染状況を把握するため、埋立場周辺地下水のダイオキシン類調査を行った。

3) し尿中継所

(1) 悪臭

し尿中継所の臭気排出口等や敷地境界における悪臭の測定を行った。

4) 緑のリサイクルセンター

(1) 剪定樹木の堆肥化調査

剪定樹木を有効活用するため、平成 8 年より緑のリサイクルセンターで剪定樹木を破砕・堆肥化し、土壌改良材として販売しており、安定した品質を図るための性状調査を実施した。

5) 資源化調査

ごみ処理施設より回収した「循環資源」の循環的な利用を促進するための調査を行った。

